

福知山線列車事故について

2005年4月25日、弊社は、106名のお客様の尊い命を奪い、500名を超える方々を負傷させるという、極めて重大な事故を惹き起こしました。改めましてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様、お怪我をされた方々のご家族の皆様に、心より深くお詫び申し上げます。

あわせて、事故に関して多大なるご心労、ご迷惑をおかけいたしましたお客様や地域の皆様方に、心からお詫び申し上げます。

弊社としては、被害に遭われた方々に精一杯対応していくとともに、新たな「中期経営計画」および「安全考動計画」のもと、さらなる安全対策の充実、企業風土の変革に取り組んでいく決意であります。

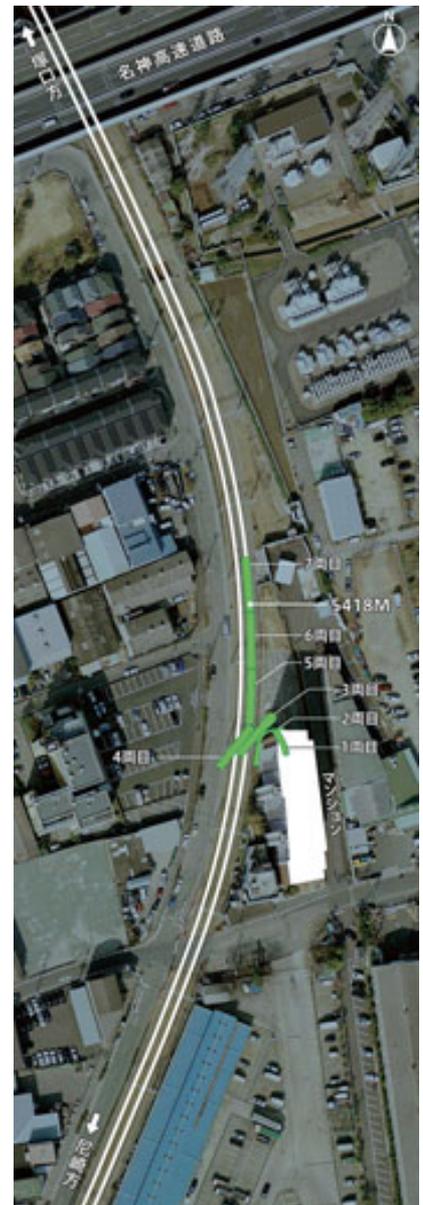
そして、この事故を深く心に刻み、お客様のかげがえのない尊い命をお預かりしている責任を強く自覚し、安全第一を積み重ね、お客様から安心、信頼していただける鉄道を築き上げることに全力を挙げて取り組んでまいります。

概要

- ・発生日時
2005年4月25日 9時18分頃
- ・発生場所
福知山線塚口・尼崎駅間 尼崎起点1k805m付近(兵庫県尼崎市)
- ・関係列車
宝塚発同志社前行 上り快速列車 電第5418M列車(207系7両編成)
- ・概況
電第5418M列車は、塚口・尼崎駅間において、半径304mの右曲線に制限速度70km/hを大幅に超える116km/hで進入し、1両目が左へ転倒するように脱線し、続いて2両目から5両目が脱線しました。
1両目および2両目車両が進行方向左側のマンションに衝突、大破するなど、多数のお客様を死傷させる大惨事を惹き起こしてしまいました。



- ・被害に遭われた方々
お亡くなりになられた方 お客様106名 運転士1名
お怪我をされた方 お客様562名 付近をご通行中の方1名



事故後の対応

安全性向上の取り組み

安全性向上計画

福知山線列車事故後、直ちにこれまでの取り組みを振り返り、反省すべき点や課題を踏まえて、より安全性を向上させるための課題を抽出し、できることから早急に実施すべく、「安全性向上計画」を策定し、推進してきました。

安全基本計画

航空・鉄道事故調査委員会(当時)から「鉄道事故調査報告書」が示されたことを契機として、2008年に「安全基本計画」を策定し、「お客様の死傷事故ゼロ、社員の重大労災ゼロへ向けた体制の構築」を到達目標として、リスクアセスメントの導入をはじめ、コミュニケーションの改善やヒューマンファクターの理解の浸透などに5年間取り組みました。その結果、リスクアセスメントにより多くのリスク低減策の実行や、社員の安全意識の向上などの成果が上がりつつある一方、鉄道運転事故や死亡に至った労働災害は依然発生しており、引き続きレベルアップが必要だということを改めて認識しました。

安全考動計画

こうした事故後のさまざまな振り返りや反省、社内外の新たな知見や経験などを踏まえ、福知山線列車事故のような事故を二度と発生させないという決意のもと、「安全考動計画2017」を策定しました。JR西日本グループの鉄道サービスをご利用いただくお客様を安全に目的地までご案内するとともに、その業務に携わる誰もが「大怪我や死亡に至ることがないよう、今後5年間の目標を数値化したうえで、具体的な取り組み内容を定めました。安全は、役員・社員一人ひとりの努力によって維持し、向上させていくものであるという認識のもと、全員参加で計画を着実に推進していきます。

⇒安全考動計画についてはP7に記載しています。あわせてご覧ください。

被害に遭われた方々への対応

現在、ご遺族様をはじめ被害に遭われた方々に対しては、ご被害者対応を行う専任組織である「福知山線列車事故ご被害者対応本部」で対応させていただいており、お一人おひとりのご意見などを丁寧にお伺いしながら、精一杯の対応に努めております。

追悼慰霊式の開催

2005年9月に「慰霊と安全のつどい」を開催し、その後、毎年4月25日には「追悼慰霊式」を開催しております。また、式典終了後には、例年一般の方々などからの献花も頂戴しています。

ご説明会などの開催

弊社の安全性向上の取り組みのご説明や弊社に対するご意見などをお伺いさせていただく場として、これまでに13回(延べ55回)、社長以下の役員などが出席するご説明会などを開催しております。

心のケアの取り組み

今もなお、ご遺族様をはじめ被害に遭われた方々のお気持ちは決して癒えることのない深いお悲しみ、お苦しみのなかにあり、専門家や有識者の方々のご指導、ご協力をいただき、少しでも心のケアに役立てていただくよう取り組んでおります。



「追悼慰霊式」



献花をする弊社役員

事故を踏まえての地域のお役に立つ取り組み

事故を惹き起こしたことにより、さまざまな方々や地域社会に大変なご迷惑をおかけしたことを踏まえ、2009年4月にJR西日本あんしん社会財団を設立し、市民の方々を対象とした心身ケアの取り組みや安全基盤形成に関する研究助成などを行っています。

⇒JR西日本あんしん社会財団についてはP38に記載しています。あわせてご覧ください。

事故を心に刻み考動していく取り組み

弊社では、福知山線列車事故の重大性と安全の重要性を肝に銘じ、社員一人ひとりが安全性向上と信頼回復に向けた取り組みを実践していくために、JR西日本グループ全体で福知山線列車事故を心に刻み考動していく取り組みを行っています。

安全性向上に向けて具体的に行動を起こす日として、毎月25日を「安全の日」と定め、安全に関する学習や系統を越えた社員間でのディスカッションなど、各職場で工夫した取り組みを行っています。特に、毎年4月25日の前後には、福知山線列車事故を重い教訓として心に刻むための研修を全職場・グループ会社において実施しています。事故当時の状況やご被害者からいただいたお声を中心とした研修教材などを用い、事故の悲惨さやいのちの大切さを心に刻み、安全への決意を新たにしています。

また、福知山線列車事故の反省点や課題を認識し、これらを踏まえた安全性向上のための取り組みなどについて学び、社員一人ひとりの業務につなげていくことを目的に、「鉄道安全考動館」や事故現場において安全研修を実施しています。

加えて、ご被害者への対応を行ってきた社員が中心となって、自分が目のあたりにした事故の悲惨さなどについて語り継ぐことを目的に特別講義を実施しています。また、ご被害者に直接講話していただき、その講話を収録したDVDを視聴するなど、社員がご被害者のお声やご意見をお聞きする機会も設けています。



事故現場での研修



事故現場に供えられたお花



献花台での献花

事故後の対応

JR西日本の取り組み 安全の取り組みなど 被害に遭われた方々への対応	運輸安全委員会(前航空・鉄道事故調査委員会)／国土交通省 H17・4・25 福知山線列車事故	H17.9 「鉄道事故調査について(経過報告)」公表 「建議」	H17.11 「安全性向上計画」の着実な実施 についての勧告	H18.3 鉄道事業法改正	H18.10 「運輸安全マネジメント評価(第1回)」実施	H19.2 「意見聴取会」開催	H19.6 「鉄道事故調査報告書」公表 「建議」「所見」	H19.10 「運輸安全マネジメント評価(第2回)」実施		
		H17.5 「安全性向上計画」策定	H17.6 「安全諮問委員会」開催 第1回	H18.3 新たな「企業理念」「安全憲章」制定	H18.6 「安全研究所」の設立	H18.10 「鉄道安全管理規程」制定	H18.10 「JR西日本グループ中期経営目標」の見直し 「経営目標」とした、	H19.6 「鉄道安全報告書」公表 2007年	H19.7 「安全諮問委員会最終報告」取りまとめ	H19.9 「安全推進有識者会議」開催 第1回
		H17.5 「福知山線列車事故相談室」の設置	H17.6 「お詫びと今後の取り組み」の「説明会」開催	H17.10 「安全性向上計画の進捗状況等」の「説明会」開催	H18.1 「地区別懇話会」開催	H18.3 福知山線列車事故ご被害者対応本部の設置	H18.4 「追悼慰霊式」開催	H18.7 「報告会」開催	H19.4 「追悼慰霊式」開催	H19.8 「説明会」開催

